



一箱拾川全





画まか多藝女をりて徒り
 有く強風動うに未だ
 依け此のまに記を通照
 何の風情をりて
 中に美のまはあたる



新編有る山祿のよめおのほ
やとらふくく黒くく風骨を
阿くくはけく免の巻れ
浄語を摘くくあくくあ
あは是孝杜く公酒寒
山く法粥をくく味ふ今の

世有才子亦く七つさく
くくをくくや仰くく以
一夜流行とくくく

新編有る
重厚本

爐邊對酌

愚二重愚

カサヌ四十乃雪の霜

成美

志々々是非を酒に

舌々々々々鸚鵡。為を志似啼そ

二

おのん昼寐乃禰音せそ 美

嵐の月夕々乱基乃星を散ラス 月

初改車今おひのらん 月

柴抱ちまの乃園子烟ぢん 月

僧詩を倦て古今經とぞ 美

てんを乃細まよとらり恋まら 月

瘦のかむ胸あまると 美

玉鞞琵琶元々延壽の筆を 月

胡村乃酒家錢を護る 美

露乃一夜我弘法の白つきききき
月

月光射^ハ市^ニ隱^ノ腸^ヲ
美

うかし鹿^ニ琉球^ニ乃^ハ芋^ヲを^レ礫^ルヤ
月

雪^ノ子^キ眼^{ヒス}を^レか^レに^テ盗^ル人
美

花^ノ薬^ス世^ニ間^ニ乃^ハ甲^子須^史の^ニも
月

蝶^ノ黙^止形^ノ乃^ハ蜂^ノか^レり^命
美

二
見^もら^や乃^ハ逐^月庵^乃春^とも^ん
日

狂^句夜^ふ々^々隨^荷の^為
月

四^布薄^窓柏^乃餅^を伴^子
美

子規^声を^レ馬^と舟^のも
月

唐^乃原^乃か^るも^ん
美

我^三味^行乃^ハ引^く乃^ハ引^く
月

命^号命^号源^四山^彦乃^ハ
美

名^を落^城乃^ハ壁^に血^書ス
月

杖^を楚^竹鴈^鳩立^況と^よめ^るん
美

秋^暮任^他寒^月乃^ハ感^ず
月

千^繩振^室乃^ハ神^と宿^をか^し
美

齒^乃采^の巢^つ之^は福^女ヲ^將
月

百日の祈にさしむるはく成美
親王の志らば後我を爲にさすはの延月
たれみの賢はうは我をさすはの成美
沙水つしはふねれゆふはの成美
さしむる箱は通繼や廣くはの成美
ひ水ふる魚は母にさすはの延月
菊の日や廳れみあつは錦にさすは成美
神回れ乃つさすはの成美

雁目はさよりに延らちれり 成美
や七十れひさこ海はま 延月
ねむるは落苑やさふ宮やれは 成美
柳につれくはう鞠の 約 延月
おれねのさむは泉らん 聖霊舎 同
瘡のひまはれあつはねはく 成美
名をつらば國は鏡 了んて 延月
いとされはの指ひく 歌 成美

破鴉さしきまきししつらぬく
逐月
る水さきの判筆全淡のうら
成美
昔もあ族父中しをくあれ月
ちま
おやがしの子は勝こあがみ
成美
得度まきしおをなまのれ其
逐月
拈佛に泣連をさゆの大年
さ
さきを梅雪をもくそは咲ぬ
逐月
草如れ露人さるんささく
成美

急溜やいと夜のゆえにささの影あり
同
と都にまきしをささく
逐月
小袖とく糸になまは珠さぬ
成美
蝶さしきよは花の内
逐月
さしきし羽の油ひく
成美
さしきさぬさぬささく
逐月

る阿耨の音たそめてる乃る

とすのす免の所んをよる流

うみろるさう桶乃善よるあひて

魚むつしと 翁師乃 善

於の月空極の修定心ん如り

きあししよ捨の 志しつゆ

遅月

全

成貞

全

遅月

紫^ウ帯乃河法しらるる流わりる

機りもの灯を提灯しりる

ひらねや信回しるるをんれり

あ乃世たのみにいふる流宿をいの

ひつしちん新茶の比乃ほしあは

おんひあしとを 念いらりする

ちも好まの化粧又秋の日いあけて

人をたのしむ月すら乃よむ

全

成貞

遅月

成貞

遅月

成貞

遅月

成貞

名

控し世をたのむやすき方の旅や 暹月
 たもをふりふ佐原の舟 新 成貞
 あかこやむの境乃岸ひはをを 暹月
 うらむ寸趣る多しし乃とる 成貞
 第の丸の角のむ甚あこに 暹月
 かに珍をのくは乃たをふれ 成貞

浪花暹月上人將探奥羽之勝掛錫於
 余隨齋一夜篝燈相與作擬古俳諧
 至明得若干首蓋余之於上人砥礪与
 美玉其復何論也但志好之一所同或
 可以附上人驥歎遂鐫以示同好焉

天明戊申季冬

夏成美識



俳諧水滸傳

全部百廿回

遅月上人著述

此書ハ俳諧の濫觴より古風壇林法流の真廢法先達の
事實正凡乃流り色蕉翁并依門弟の事跡追くハ
尚附の變化ありあるを凡三百年來の俳諧の沿革以
集く多く教与の物而とありしを

續山井

隨齋先生校正

乞食傳

重厚先生撰

麻りり

同撰

是寺人

同兩吟

一教流り

遅月上人筆戲

呼子のと向り

同

百花物語

書林

江戸本石町十軒店

山崎金兵衛藏

